

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和8年3月31日

団体所在地 東広島市河内町河戸 802-2

団体の名称 東広島市

職・氏名 所長 伏原 香緒里

(施設名 東広島市立河内西保育所)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・園庭の花壇づくり（みんなで花を育てよう）
- ・稲作
- ・育てた花や、園庭・保育所の周りの草花を使ってアレンジメントを楽しむ
- ・梅とヤマモモの収穫と梅ジュース・ヤマモモジュースづくり

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・キエーロの土づくり
- ・よく滑るウォータースライダーのための実験
- ・木陰で水遊び
- ・ネイチャーゲーム

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・干し柿づくり
- ・お米の収穫
- ・どうぞのいす作りと自然物の収穫

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・お米の脱穀
- ・デイキャンプ（豚汁クッキングと飯盒炊爨）
- ・火起こした体験
- ・園庭の冬の自然探し
- ・雪遊び

活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】

（写真）



（エピソード記述）

園庭の梅やヤマモモの木に今年はたくさんの実がつけました。子どもたちと一緒に実を拾って洗ったり、梅のヘタを爪楊枝でとったりしました。

梅やヤマモモジュースの作り方を説明した後、毎日氷砂糖が溶けるよう順番で瓶を振りながら「どんな味がするのかな？」と想像を膨らませジュースになるのを心待ちにしていた子どもたちでした。

ジュースを飲むと「甘酸っぱくておいしい！」と大好評。ヤマモモは豊作だったため、ご家庭にも提供しました。

収穫→計量→果実と氷砂糖のサンドイッチ→瓶振り→加熱の手順をしっかりと覚えた子どもたち。親子でジュース作りを楽しんだという嬉しい報告もありました。

【7月～9月】

（写真）



（エピソード記述）

今年の水遊びも山からウォータースライダーを楽しみました。昨年も経験している子どもたちは、ウォータースライダーと聞いてすぐに「せっけんがあれば滑る！」と一番に石鹸を取りに行き、シートにぬりぬり・・・

友達の滑っていく様子を見ながら、「ほらね」の表情が印象的でした。

経験したことは時間がたっても忘れることなく、しっかりと子どもたちの中に残っていました。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

今年は園庭の果物が豊作で、柿の木にもたくさんの柿が実りました。そのまま食べると渋い渋柿ですが、干し柿にすると甘くなります。昨年も経験した年長児が「今年も干し柿食べたい」と言ったことがきっかけで、干し柿づくりをしました。

皮をむいた柿をロープにつるす作業を異年齢の友達で助け合いながら行いました。

給食の先生に「熱湯にくぐらすとカビが生えるのを抑えることができるよ。」と聞いて、即実行！

干し柿は白い粉を少しつけながらおいしく仕上がりました。

渋い柿も干したら甘くなることに気づいた子どもたち。収穫した柿の木のそばで「甘くておいしいね～！」と言いながら干し柿をいただきました。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

今年度、子どもも保育士も初めての米作りに挑戦！稲刈り後の作業のやり方を誰も知らなかったため、保護者に適切なお米の水分量を計っていただいたり、脱穀に適したお米になるまで乾燥させたりするなど、教えていただきながら何とか脱穀することができました。脱穀後、もみ殻を取り除き、玄米にするためにはどうしたらよいのだろうと、お米を瓶に入れて棒でつついたり、ペットボトルに入れて振ったりと試行錯誤を繰り返しました。最終的にすり鉢に入れてもみすりをすることが一番よいことがわかり、子どもたちもはりきってもみすりを行いました。来る日も来る日も、もみすりを行う中で「お米を作るのってこんなに大変なんだね。」と実感した子どもたちは家から持ってきたご飯を一粒も残さず食べるようになりました。

後日、飯盒炊爨で白米と玄米の食べ比べをしたところ、「お米って甘い。」とお米の甘さをしみじみと感じた子どもたちでした。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

（例）こども環境管理士を担当保育士が取得（12月）

○令和7年度ひろしま自然保育認証団体に係る研修

（6/25 資質向上研修）職員2名参加（9/16 資質向上研修）所長補佐1名参加

（7/15 安全管理研修）所長1名参加

○外部専門家によるネイチャーゲームの基本理解の勉強会 職員8名参加（9月）

○外部専門家によるネイチャーゲームの実践 参加者 11名参加（10月）

○ネイチャーゲームリーダー（指導員）を所長が取得（11月）

○自然体験活動アドバイザーを招いて自然保育の実践と勉強会を実施 職員7名参加（1月）

- ・ 地域との関わりについて

（例）専門知識のある地域の方に園庭のぶどうの木の選定や野菜づくりを月一回交流（毎月）

○稲作作りのアドバイスをもらう（春）

○近隣の方のお宅で春の七草を摘ませていただいたり、柿をいただいたりした。（春・秋）

○地域の方が飼育している鯉やヤギとのふれあい（随時）

○地域の方に野菜作りのアドバイスをもらう（随時）

- ・ 保護者との関わりについて

（例）果物や野菜を保護者と一緒に収穫（毎月）

○花壇や乳児向けクローバーの小さい山づくりをワークショップで行う（5月）

○ワークショップ（保育参加）にて園庭で摘んだ草花を使つてのフレームづくりや苔玉づくりを親子で楽しむ（7月）

○保育所で収穫した野菜（たまねぎ・だいこん・トマト苗）や、園庭の果物（ヤマモモ・ウメ・ナツメ）を子どもと一緒に親子で収穫し家庭に提供した（旬の時期）

○アウトドア参観日にて親子でカレークッキング（幼児クラス）とピクニック給食（11月）

○アウトドア参観日にて親子でネイチャーゲーム（自然探し）を楽しむ（3歳未満児クラス）（11月）

- ・ その他

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	
-----	--